

障害のある人のアートサポートに必要なこと（ダイジェスト）

1、安心、安全の空間をつくる

- ・この場（ワークショップ会場）が安心できる場所だとわかって、はじめて参加者は創作に集中することができます。楽しく、かつ安全な環境づくりをしましょう
- ・参加者が他人や自分を傷つけないように最大限配慮しましょう

2、障害者としてではなく、一人の人間として接する

- ・支援者やご家族ではなく、まずはその人に向かって話をします
- ・その人が呼んで欲しい名前呼びます。サポートするあなたも同様です
- ・必要なサポートがないか、はじめに聞いておきます（例：車いすは断りなしに押さない）

3、待つこと、聞くこと、見ること

- ・なにを作ろうか考えている参加者に対して、先回りしていろんな提案をしないように気をつけましょう。試行錯誤こそが財産。まずは相手のペースを大事にしながら待ちます
- ・相手が何を必要としているか、小さな声でも聞きとる態度を心がけましょう
- ・周囲の状況も含めて、いまなにが起きているか、よく見ましょう

4、否定しない、評価しない、選択肢を示す

- ・アートに正解はありません。どのような表現でもまずは肯定的に捉えます。参加者のやっていることを良い悪いで評価しようとするのではなく、自分が感じたこと（わたしはこう思う）を素直に伝えましょう
- ・参加者がしたいことがわかり、それに向けて動きはじめたら、さまざまな材料や方法があることを伝えましょう

5、いっしょに楽しむ

- ・創造的な空間をつくるのは、サポーターも同じ。そこで起きていることをいっしょに楽しみながら、ときには脱線もしながら豊かな時間を過ごしましょう！